
ホームランバッター後藤

メロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ホームランバッター後藤

【ZPDF】

Z2715Z

【作者名】

メロ

【あらすじ】

俺はホームランバッター後藤！ 世界は悪のピッチャーに支配されている！ ホームランで世界を救うぜ！ あと、愛！

高校と野球と出会い

俺は高校一年生！
俺は野球が大好きなんだ！

俺にかかればどんなバットも振り回すぜ！――！

俺はバットで地球低軌道の人工衛星を打ち落としたりもした！
あれはいいバッティングでした、とにかく思いつきり振りぬきました！

俺のバッティングはホタテやエビなどの魚介や野菜からダシをとつたしようゆベースだ！

いわゆる、ホームランバッター！

親父は海に向かつて叫び、母親は草花をムシャムシャ食べるすげー奴なんだぜ！

ちょっと怖いけど、全部事実なんだ！

俺の好物はハンバーグ！

肉が好きだ！

それが俺の口臭の大きな原因だ！

女の子に嫌われちゃうよ！

肉つておいしくて奇跡の塊だよね！

奇跡つて素敵！

そんな俺も高校一年生！

犬で言つたら、とつぐに死んでいるだろうね！

かわいい奴だつたのに・・・絶対に許せネエ！

地球の怒りが、俺の家の周りをグルグル回るぜ！

高校生になったから、憧れの野球を始めるんだ！

野球は官僚〇Bの天下りの温床と指摘されてきたが、そんなことはない！

みんなはバカだらうから、あまり野球のことを知らないんだ！

野球はどうすれば始められるのか？

最初はバットを振り回すことから始めればいいのだ！

簡単だろ？

野球とは極まつてみると、バットをどれだけ振り回せるかで競う物だから！

早速、インターネット高校の野球部にきたぜ！

言い忘れたけど、俺が通つてる高校はインターネット高校つて言つんだ！

カツコよくて原因は不明だが内臓がはみ出たろ？

「新入部員です」

「よほきたね、ここが野球部だ！俺は野球部の金をどんぶり勘定で資金を管理するぜ

野球部の人気が現れた！

野球部の人は市販のおにぎりの1・5倍あり、たくましい印象！

だからってビビルかよ！

逆にビビらせていい思い出にしてやるぜ！

「出たな！俺は後藤！野球界を拳一つで、のし上がつてやるぜ！」

俺はパンチに自信があるんだ！

どんなピッチャーだつてKOして見せるぜ！

相手のピッチャーが一球投げる間に俺は、三発は殴つてやるぜ！

俺のパンチに一発当たるたびにエコポイントをあげるぜ！

いっぺいためくれよな！

ギリシャ神話の高校野球

「自己紹介をしよう！俺は野球部キャプテン、二年の花田だ！」

野球部にとつてはキャプテンと言つ称号を持つものは神だ！

神がストライクと言えばストライク！

無効試合と言えば無効試合！

「キャプテン！野球部に入れておくれ！俺はすでにプロも驚くほど
の身のこなしを持つ、天才野球少年たる潜在能力を秘めた男！ホー
ムランバッター後藤だぜ！」

持つていたバットでキャプテンの頭をフルスイング！

犠牲フライを打つつもりで打ちました！

「ばか者！バットは人を叩くものではない！ボールを叩くものだ！」

バットはボールを叩くものだつた！

以外だがたぶんそう！

「へー、悪かつたな」

ホームランバッターは、悪い時には素直に謝る柔軟性も持つていて！

「後藤君はどこのポジションが希望だい？」

野球にはポジションと言つものがある！

はるか昔、ギリシャ神話の時代からある！

ギリシャ神話というのは簡単に言えば、千葉県の民話である！

みんなも読んで、野球を勉強すよつぜ！

野球を勉強すると、背が伸びて、縮んでその後、爆発するんだぜ！

きたねえ花火を世の中にぶち上げろよ！

「僕の希望のポジションはホームランバッター！それ以外はやらな
い！あとは、お前らが勝手にやれ！」

ホームランバッター後藤はホームランバッター以外はやらないのだ！
この拘りがホームランを生み出す予定だ！

「野球にホームランバッターってポジションはない」

「ななんんだつて！俺の夢が、息絶えて夢の墓場へおしゃられた」

野球にはホームランバッターってポジションはなかった！
たぶん最近まであったけど、なくなつた！
酷い話だね！

ポジション争いの末には恨みしか残らない

「いいか野球には沢山のポジションがある！その中から選ぶんだ！」
ポジションを選ばせてくれた！

普通はこんなことないよ、特別だよ！

ホームランバッターだから選ばせてもらえるわけだ！

ホームランバッターは大抵のポジションならこなせてしまう！
野球漫画から得た知識を使えば簡単なことだ！

後藤は幸い野球漫画が大好きだ！

ただし、試合の部分は読み飛ばす派！

野球の部分とかよくわからないし！

球とボールがあっちいったりこっちいったりしてるだけなので、読
まなくてもいい！

むしろ読んではいけない！

「ピッチャーガいいな！ピッチャーは野球のポジションの中で一番
偉いから！それ以外のポジションはピッチャーにあぶれた奴のやる
ところだろ」

ピッチャー以外はあまり偉くない！

「ピッチャーカ・・・もつピッチャーはいるからな」
ピッチャーがいた！

「そいつを殺せば俺がピッチャーダな！」

殺してもポジションを奪うのが高校野球！

「俺を殺せるかな！」

キャプテンの小脇から高校生が出てきた！

「誰だ！」

後藤はキャプテンの顔をバットで流し打ち！

外角低めのキャプテンの顔を逆らわずに打ちました！

「俺はピッチャー上田だ！ピッチャーは俺がやる…どうしてもやり
たいと言つならテストしてやろうつ

「いいのか？テストに合格したら……おまえはどりするんだ！」

「キャプテンがあせつちやつた！」

「あのおせらなことで有名なキャプテンが！」

「おれはピッチャーを辞めて、ヤカンでも毎日舐めているよ」「ヤカンは舐めるとおいしいからね、もちろん後藤も好物だよ！」

「みんなも舐めよう！」

「テストってのはなんだい？まさか、ボールを投げたり投げながつたりするんじゃないだろうな」

「ボールをあまり投げたことない、後藤に不利なテストじゃないだろうか？」

「もし、そんなことだつた直ちに断り！」

「不服を言つ！」

「もしくはバットを振り回して、花壇の中で踊り明かす！」

「こうすると、不思議と花がよく育つと一部の村では言われている！」「もちろん嘘に決まってる！」

「信じる奴は地獄に叩き落してやる！」

勝ち負けがすべての世の中は寂しかるだら?

「お前が球を投げ、俺が打つーー振が取れたらピッチャーをやられ
てやるうじやないか」

すごく後藤に不利な条件を突きつけてきた！

「断る！俺はお前にボールをぶつけるーもしくはバットを使つてや
つつける！ー」

野球のルールなんてものに縛られないのがホームランバッターだ！

「それでは勝負にならないだろ！ー」

勝負にはならない！

勝ち負けがすべての世の中は寂しそぎるだら？

勝ち負け以外に価値を見出していく、見えるものもあるー

「俺がボールを投げ、お前もボールを投げるーそしてバットで殴り
あつ！」

結局は殴り合いで勝負決めよみやー

勝負は勝ち負けがすべてだ！

負ければすべてを奪われる！

奪われるな、相手からすべてを奪い取れ！

それがホームランバッターの宿命だ！

「それではダメだ！」

タフな交渉になりそうだぜー

後藤のポジション争いは、すこく熱気を帯びてきているー

「お前は何キロスピードができるんだ！俺よりスピードが出せたら合
格にしてやるよー！」

スピードがあればバッターを討ち取れるんでしょうか？

答えは違います！

むしろスピードなんてないほつがいいと最近のどこかの調べで言わ
れている！

なければならない方がいい！

転がすのがいい！

届かなくてもいい！

ボールを持たずに忘れてきてもいいくらいだ！

「俺の球は速くない！だから勝負しない！俺が勝てるもので勝負しろ！」

勝てる勝負に拘るのも勝負師としては必要だ！

みすみす負けるなんてできないのだ！

「お前の勝てる勝負とは？」

「それはお前が考える！なんでも聞くんじゃない！聞けば答えてもらえるなんて考え方には甘えだ！甘えるな！頭を使え！…ばか者…」「甘えは許さない！」

「ぐぐぐぐ…」

「諦めろ！俺の勝ちだ！俺が確実に勝てる勝負もわからないで、ピッチャーミたいなスターが務まるか！今日から俺がピッチャーだ！お前は俺に投げられるボールになれ！」
元ピッチャーはボールのポジションにコンバートされた！

適材適所！

三人の英雄たちが揃い踏み！

野球をやるための戦士たちがついに集まつた！

ピッチャーホームランバッター後藤！

ボール元ピッチャーアル元上田！

キャプテン花田！

三人の英雄たちが揃い踏み！

後に世界史に輝く出来事で、三人そろつた日だ！

「甲子園を地獄の炎で焼き尽くそうぜ！」

「そう、簡単にいくかな？野球はもつと大勢でやるスポーツだぜ！」

詳しいことはわからないが、三人ではたりない！

「上田が言うとおり、三人では野球はできない！20人くらいればできると思うが・・・」

キャプテンも詳しいことはわからない！

野球に関して詳しい人はあまりいない！

科学雑誌にからうじて出ている程度の情報しかない！

隠された神秘のスポーツ野球！

その謎は今も多くの研究者たちの興味を搔き立てる！

「いや！あえて、三人で野球をやろう！大勢でやるだけが野球じやないはずだ！あつちが人数でくるなら、こつちは暴力で勝てばいいんだ！」

発想の転換がひっくり返つて知恵が絞り出た！

「そうだな！三人が力をあわせれば、なんとかなるかもしれない！」

「キャプテンやつてみようぜ」

「きびしいぞ！いいのか一人とも」

「友情パワーで野球をブツつぶそうぜ！」

友情があればどんな卑怯な野球部にも打ち勝てる！道は厳しくとも、恐れず進む先に道はある！

「さつそくトレーニングを始めよう！」

キャプテンは野球マンガを出した！

近年の野球は、野球をよく知ることが勝つための早道なのだ！

その為には野球マンガを読むのが一番いい！

すぐに上達する！

プロ野球選手になる人は野球マンガ読み、野球マンガを食べ野球選手としての基礎を作るといつても過言ではない！

ルールを知り、野球のメカニズムを知る！

情報こそが力を持つ！

肉体的トレーニングをしているような野球部は時代に取り残された化石！

それで勝てる時代は過ぎ去った！

球場は黄金で作られているとか！

読んでみると野球マンガっておもしろいですね！

三人は毎日毎日、野球マンガを読み続けた！

続ける事に意味がある！

野球マンガから得た物は数知れず、気持ちはすでにメジャーに行つた！

アメリカのスラム街に三人の魂は成仏することなく飛び回る！メジャーと言うのは野球の仲間で、野球より偉いとされている！

野球をする人はみなが憧れる、それがメジャー！

メジャーにいくと願い事が叶うと言われている！

一説によると球場は黄金で作られているとか！

「キャプテン！もう、野球マンガは飽きたよ！いつも球を投げ、打つ！これの繰り返しじゃないか！魔法も出てこなければ、料理もでてこない！これで野球の未来があると言つのか？」

上田は野球の未来が心配になつた！

マンネリしていくことで、読者に飽きられてしまうのではないか！野球の勝ち負けだけで読者を、マンガの世界に引き込むことができるのであるのか？

「しかし野球マンガの本道は野球にある！そこをあらそかにしてしまえば、野球マンガとしてなりたたなくなつてしまつ！」

キャプテンの野球原理主義は相当だ！

「野球の部分を文字で描いて、あとは恋愛でいいよ！野球をやればモテるんだと！もてもてなんだと！これを押し出していくば野球は幸福な未来を迎えるんだよ！それにより野球人口は増えて、ホームランバッターはチヤホヤされ、俺はいい気分になるんだ」

野球をあえて恋愛のスペースに使うというアイディア！

「もはやそれでは野球マンガではなく、恋愛マンガだ！そんな物は野球マンガとして認められない！野球マンガに女の子など不要なの

だ！男、バット、ボール！これで描ききつてこそその野球マンガだ！「古臭いよ！頭にカビが、生えちまつてる！そんな野球マンガ誰が読むんだ！」

「俺が読む！」

「あんただけが読んでも意味ないだろ！」

「俺が1兆部買えばいいんです！」

「置く所がないだろ！」

「借りるよ！」

二人は抱き合い、息を掛け合い口論している！

気持ちの悪い男たちだ！

「一人とも、結論を急ぐべきではないぜ！まだ、甲子園までには時間がある！ゆっくりマンガ読み、訓練するんだ！力をあわせれば強豪校に勝つ方法がマンガに載っているはずだ！」

今、仲間割れしている場合ではない、三人はマンガを読み甲子園を目指さなければいけない！

他の高校も甲子園を目指しグラウンドで血の涙を流している！三人も負けずに野球マンガを読み、苦しい特訓に耐えている！どちらが正しいか、それは試合でわかることだ！

野球選手の八割は違和感でできている！

「我々は相当に鍛え抜かれた！」

マンガを沢山読んだので、手に筋肉がついた！

アメリカのスポーツ界では今、注目の筋トレ！

そして、マンガから技術を習得しバッティング理論が確立された！
球が来たら、真摯な気持ちでバットを出し当たれば喜ぶ！

あと、もうマンガは飽きた！

「キャプテン！ それじゃあ！ ついに試合ですね！」

上田は喜びはしゃいだ！

そこに落とし穴があつたのだ！

落とし穴はいつでも口を開け、お前が落ちるのを待ってるんだ！
落とし穴に落ちた先には竹やりが準備されていることも少なくない
から、気をつける！

気をつけてもお前らは落ちるだろうがな！
むしろ落ちてしまえ！

バカ！

「ごめんよ」

後藤がうつかり上田の手足をバットで一時間打つてしまった！

「あ・・・なんか手足に違和感がある」

野球選手にとって違和感はつきものだ！

違和感のない野球選手はいない！

野球選手の八割は違和感でできている！

残りは金に対する執着！

「キャプテン！ 俺はやりますよー！ こりやらなきやー！」

野球選手は無茶をして、シーズンを棒に振ることもある！

慎重に見極めて、リハビリをし続けることも大事！

リハビリを通して、恋に発展する出会いもある！

今の時代はリハビリから結婚と言う、恋愛の形が増えてきていると

言つ！

そんな愛の形も素敵ではないでしょうか！

恋をしたいが為にリハビリを始める野球選手も少なくない！

「怪我か・・・よしやれ！お前の体はお前の物だ！壊れてもお前の物だから、俺は平氣だと思う！」

キヤプテンの判断は的確だ！

他人の怪我の状態など興味もない！

「上田・・・すまない！俺が・・・」

悪いとは思つていないが、後藤は反省したふりをした！
むしろ後藤が被害者だ！

「いいんだ後藤！俺の不注意さ」

「そうだな気をつけろ！」

ボールで上田の田の部分を狙つた！

針の穴をぶち壊す「ントロール！」

上田のつまらない怪我のせいだ、後藤の未来が壊されるとこりだつた！

どんな世界でもこんな、人の足を引っ張るクズがいるんだよね！

甲子園の土を食べると、長生きできる！

上田の怪我と言うハンデを背負つても、負けられない戦いがある！

甲子園に出るんだ！

土を持ち帰つて食べるんだ！

甲子園の土を食べると、長生きできる！

「キャプテン！甲子園の前に、練習試合をしましょう！ホームランアーティスト後藤の力を今こそ見せてやる！」

後藤はホームランを打ちたい！

後藤のホームランは気を抜いた高校球児を地獄に送り込む能力を持つている！

「それでは今から、近くの学校に連絡してみよう！」

いきなり訪問するのではなく、あらかじめ連絡をする！

キャプテンの根回し！

連絡もせずにいきなり、練習試合にいく無礼な高校生もいるが社会では通用しない！

もちろん通用する人もいるから、一概には言えないけどね！

でも、社会にてたら礼儀と言うのはすごく大事！

「キャプテンしつかり！危なかつたら俺が変わつてもいいんだぜ」

上田は電話をかけるのがうまい！

オレオレ詐欺の番組を見て研究したからだ！

「あーもしもし！スクールミズギ高校ですか。俺は野球部キャプテン、三年の花田だ！野球部キャプテン、三年の花田担当の人をお願いします」

ちゃんと担当の人を頼む！

担当者じゃないと、わからないこともある！

「キャプテン！少し、変わつてよ！」

上田がキャプテンから電話を奪つた！

「少しだけだぞ！」

「オレ、オレだよ！花田？・・・そう、オレ花田！下請け会社に払うお金を、電車に忘れちゃったんだよ・・・なんとかしてもらえないかな？野球・・・野球の下請け会社だよ」

オレオレ詐欺！

「バカ！試合の約束するんだろ！」

後藤が上田から電話を奪つた！

「俺はホームランバッター後藤！・・・え・・花田？違うよ！後藤！花田なんて知らん！金？それは欲しいよ！俺はホームランが打ちたいんだ！なるべく沢山！お前もホームランにしてやろうか？はははははは！ビビッたか！」

相手を恐怖に陥れる！

「何を言つてんのだ！貸せ」

キヤプテンが後藤から電話を奪う！

「俺は野球部キヤプテン、三年の花田だ！」

キヤプテンは電話をきつた！

気持ちちは相手の高校に伝えた！

熱い気持ちが伝わったはずだ！

ホームランを甲子園で一兆本打つかもしれない

やれるだけのことはやった！

やつたぞー！

やり抜いたぞ！

そしてついに、高校野球大会が始まつたのだ！

始まつてしまつた！

まずは予選！

もちろん予選参加申請はしていない！

面倒だし！

むしろあつちサイドのミス！

「申請はしていないが、もしかしたら試合をくんでくれるかもしない！」

かもしれない野球！

常に先を見据えていく力！

常に世界は動いている！

今だけを見ていてはダメだ！

過去を見て、今を見て、未来を見通すことが大事なのだ！

「キャプテン！予選は免除かもしない！」

「いやむしろ、試合なしで優勝かもしない」

かもしだれない！

優勝は決まつたようなものだ！

「やつたー！優勝おめでとう！」

「優勝・・・みんなありがとう」

「俺のホームランを忘れてもらつては困るぜ」

上田は喜んで、涙を流した！

無理もない、あの拷問のような練習に耐えたのだから！

練習は嘘をつかない！

相手の高校ももちろんがんばつたと思つ、でも今回は「あらの方が

わずかに上だつただけだ！

甲子園レベルになればそう差はないのだ！

「俺はホームランを甲子園で一兆本打つかもしれない！いや、打つた！俺はホームラン王だ！王様だ！甲子園は俺の城だ！」「

後藤はホームラン王！

「ホームラン王となると、スカウトが黙つちゃいないな！日本、アメリカ・・・宇宙」

「キャプテン・・・気が早いよ。えへへへ。でも、入団の時の挨拶考えておかないといけないね」

ホームランバッター後藤にとって、日本、アメリカでは小さすぎるで宇宙リーグでホームラン王を目指す！

むしろもう宇宙ホームラン王かもしれない！

「これで、俺たちも卒業できるよ」

一人は高校野球部を卒業した！

足手まといだつたからいいけどね！

「甲子園優勝！ホームラン一兆本！次の大会も優勝するぜ！..」

その為には今度は部員を集めなけばいけない！

一からのチーム作り！

甲子園連覇に向けて動き出した、ホームランバッター後藤！

連覇への道は厳しい茨道だろうが、諦めずに努力すれば夢は叶う！努力こそが夢を叶える近道なのだと、身を持って伝えるのがホームランバッター後藤！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2715n/>

ホームランバッター後藤

2010年10月10日15時32分発行